

創刊号

発行  
成相山成相寺  
京都府宮津市字成相寺339  
TEL0772-27-0018  
<http://www.nariaiji.jp/>

こんにちは！ 弘真です！！

この度、成相寺中興代十六世に晋山致しました。弘真（コウシン）と申します。

簡単に経歴を申し上げますと、子供時代は毎日成相より登山バス道を駆け下り、リフトの横の階段を駆け下り、地元の小学校に通いました。



その後、高野山大学に上がり修行を致しまして、平成元年より成相寺副住職として勤めて参りました。

私が晋山にあたりまして、何より大切にしたいものの中に祖父哲眞の言葉があります。子供の頃より祖父の膝の中でこの言葉を聞いて育ちました。

「二而不二」（ニニフニ）という言葉です。老僧にお会い頂いた方なら、「ああ、あれか。」と、お分かり頂けるかと存じますが、「二つで一つ、一つであつて二つ。」と言う意味の言葉です。

老僧がいつもお客様に話しておりました「自由」と言う二つの思想の話。たしかこんな内容だったと記憶しておりますが…。

「この二つの思想なり考え方は、明治初年から徐々に培われて育てられてきた思想でしたが、やはりまだ

封建時代の温床の中に育った物で、真に国民の一人一人の身に付いていませんでした。そんなところへ、戦後怒涛の様な勢いで流れ込んできた「自由と平等」の思想は、果たして日本人の精神生活を救う役目を果たすことが出来たかと考えますに、誠に疑わしいと私は思います。「自由」という言葉や思想は、いつたいどんなことを意味しているのでしょうか。

現在使われている「自由」という言葉は単に自分のわがまま勝手を主張し、まさに自由奔放であり、これは動物の世界の自由でありまして、人間の世界の自由ではありません。

遠く昔から人々がこれを勝ち取るために起こしてきたいくつもの戦いと試練。この珠玉のように尊ばれる「自由」という権利は、誰でもが無条件にたやすく受けられる権利ではありません。人間生活にとつて最も尊く大切なこの権利を享受するためには、先ず第一にお互いが自主性を持つ人間にならねばなりません。「遵法の精神」で、あります。「義務を果たして人間として正面に顔を向けて生きていく事こそ、何より大切



老僧の話はまだまだ続きますが、最近の世の中をかいま見ますに、「自由」という言葉が、独り歩きしてきているように思われます。

今こそ考え直さなくてはいけないと考えます。義務と背中合わせの自由でなくては、本当の自由とは、申せないのでは無いでしょうか。「二而不二」「自由と義務」二つであつて一つである物。そうでなくては、いけないのでは無いでしょうか。私達の社会は今大きな岐路に立つ

ていると思われず。子供が大人に向かつて、又は大人が子供に向かつて平気で「殺したるか。」「死んだらいいのに。」等と言いつつ世の中、誰もが良いとは思っていません。でも誰もが何から始めたら良いのか、何を語るべきなのか迷っています。大人が子供に伝えたいことと、子供が聞きたいことのズレが大きく生じています。

子供達に今一度「自由」の尊さを伝えておかなければ彼等が大人になつたときに、そこに本当の意味の「自由」は存在するのでしょうか。

老僧の膝で聞いた色々な話。思えばあれが私の修行の始まりだったのかもしれない。

私は祖父の精神を次の世代に残していかなければなりません。時代と共に替わりゆく人々の考え方に併せ

て、時代遅れにならない祖父の理念を皆様に、子供達に伝え続けていかなければなりません。

今、我々身の回りには自由が満ちあふれています。どうか、その一つ一つを慈しんでください。先代の人々がその自由を勝ち得るためにご苦労されたことを、思い起こしてください。皆様のご先祖様に感謝をなすつてください。そして、いつも導きそばにいて下さるお観音様に手を合せてください。始まりはそこからであると、信じております。

若干四十七歳では御座いますが、精一杯務めさせていただきます。

どうぞ、よろしくお願い致します。

合掌

## 退山のご挨拶

私の父であり先代の哲眞は昭和二

十一年十月、当山に晋山をし、昭和五十一年までの三十年間住職を勤めさせて頂きました。当時は交通の便が非常に悪い上、成相寺は住める環境になかったため、福知山の威光寺より成相寺まで自転車で通つたものです。多

少の米を自転車に積んで大江町へ出て、由良の奈

具海岸を通り、海岸の景色の良いところでにぎり飯を食べ、府中のケール下の民家へ自転車を預けて、そこから歩いてやつと成相寺までたどり着いたものでした。

皆が力を合わせ少しづつではございますが、しかし必死になりながら無我夢中で寺の復興に取り組みました。米が少なくなれば粥にして飢えをしのぎ、無くなればまた威光寺へ帰り、米を持って成相寺へ行き……。その繰り返しですが七、八年も続いたでしょうか。

そうして徐々に成相寺の復興をなし、昭和五十一年十月に本堂の屋根替えをし、その法会に併せ私が晋山をしたわけでございますが、哲眞老僧が三十年間、私が（現在平成十九年の十月まで）三十年間、親子二代にわたり力の限り成相寺の復興に全精力を尽くしてまいりました。この間、皆様方には大変お世話になり、また何かとご無理も申しましたが、お陰様で本日無事に退山の日を迎えることが出来ました。これもひとえに観音様のご慈悲と皆様方のお力添えのお陰であると心から感謝申し上げます。次第でございます。

哲眞老僧の三十年間の苦勞に比べますと、私の苦勞などは物の数ではなかつたと思えますが、全てが懐か

しく、またひと時の出来事であつたかのように思い出されます。

本日、晋山を致しました弘眞につきましては、まだまだ未熟者でございます。皆様方には大変お世話になると存じますが、なにとぞ私と同様に変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

簡単ではありますが、私の退山のご挨拶にさせていただきます。

平成十九年十月吉日

昭和中和興二世 昭眞

合掌

